

第3回東大阪市総合計画審議会 議事要旨

■概要

会議名称	第3回東大阪市総合計画審議会
日時	令和元年5月13日(月) 10:00~12:00
場所	東大阪市本庁舎 18階研修室
議題	1. 開会 2. 議事案件 案件1 重点施策検討部会の検討状況(報告) 案件2 土地利用構想について 案件3 基本施策の大綱について 案件4 今後のスケジュールについて
出席者	(東大阪市総合計画審議会委員) 森田委員、安田委員、◎石田委員、森(優子)委員、富田委員、 衣笠委員、高畑委員、住山委員、茨木委員、濱谷委員、○松浦委員、 中井委員、森(雅声)委員、阪口委員、○川口委員、立花委員、 鈴木委員、田野島委員 欠席：河邊委員、田間委員、田中委員、猪野委員、濱橋委員、 大久保委員、堤委員、北井委員、野口委員、坂本委員 (◎…会長、○…副会長)
	(事務局) 経営企画部 松本部長 経営企画部企画室 竹本室長、西田室次長、谷主査、樋野主査、 前田主任、南後係員
会議の公開/ 傍聴人の数	公開/傍聴人0名

■議事(要旨)

案件1. 重点施策検討部会の検討状況(報告)

- JRおおさか東線が開通し、駅周辺のまちづくりも検討していたものが実現してきていると思うが、その実現によってさらにまちの姿も変わってくるのではないかと。その一方で、東大阪市は市全域が既成市街地であるため、既存の土地利用との調整が重要になる。沿線には工場が結構あり、グローバル化の中でのいろいろな変化が見えてくると思うが、そのあたりも検討したほうがよいのではないかと。

【委員】

⇒JR おおさか東線は利用者が増えてきており、いろいろな路線とつながる乗換利便性などを発信するとともに、沿線におけるまちづくりの方向性を示さないといけないと感じている。【事務局】

- 第1部会の「人が集まり」というこの「集まり」の部分に関して、外部から人を

集めて活気を出すのか、内部的に住民が集うという形で集まって活気を出すのか、どちらをメインに政策を打っていくのかでPRの仕方が変わると思う。【委員】

⇒「人が集まり」というのは外から人を呼び込みたいという思いがあってテーマを設定している。活気を維持しようと思うと、市外から東大阪に来て働いたり、余暇や文化活動など何かを楽しむといったことで東大阪に来る人を増やす、大事にするというところが活気の維持に必要なのではないかと考えている。【事務局】

- これまでの審議会での議論の中で、人口減少と財政面の観点に非常に重きを置いていたと思うが、重点施策の3つの方針の順番（①人が集まり、活気あふれるまち；②若者・子育て世代に選ばれるまち；③高齢者が元気に活躍できるまち）が、アベノミクスの新3本の矢のように経済施策を打ってから人口減少のことを言い、それから福祉に関して言うみたいな、そんなふうに感じてしまう。②、③、①の順番にすると、今東大阪に市に住んでいる方たちの政策を重視しているということがよりアピールできるのではないかと。1番目に来るワードというのはPRとしても重要だと思うので、順番を検討していただきたいと思う。【委員】

⇒重点施策の3つの方針の関係性について、どれも大切なテーマであるが、経済を優先するのか、他の施策との関係性がどうかなどについて、もう少し内部で議論が必要な部分だと思っている。【事務局】

⇒補足として、第1部会の交流人口の拡大については、大阪モノレールの南伸や花園中央公園、ラグビーといった人を呼び込めるコンテンツなど、今の強みをさらに磨き上げながら人を呼び込んでいく、第2部会は人口減少への対応をより強く意識し、若者、子育て世代など、住んでいただける方に選ばれるまちづくり、第3部会は今後の超高齢社会へ対応していくためのまちづくりの考え方という認識である。重点施策の3つの方針のうちどれを優先すべきかについて、今後それぞれの部会で議論していく中で、事務局と部会員でいただいた意見を共有しながら検討を進めたい。【事務局】

- 第1部会の意見として「まちに音楽や芸術作品が溢れている」とあり、将来このような姿をめざすということだと思うが、今はそうになっていないということか。そのような状況にするためには、文化創造館で事業者主催の催しが必要なのではないかと。【委員】

⇒現状、ジャズストリートが開催されたり、美術センターでいろいろな方々が作品を展示されているなど、東大阪は大変音楽・芸術活動が盛んなまちであるということは部会員も当然認識している。その上で、今後新たなコンテンツという意味で、例えば花園中央公園の野外の環境を利用して何か音楽イベントを打ってみるとか、小阪や鴻池のジャズストリートのような取り組みをもっと市域に拡大していくとか、そういった形で、今後さらに文化活動を活発化させていくという観点での意見と考えている。文化創造館について、事業者が運営主体となるが、市民の方々が多く集いながらそれぞれの文化、音楽などを発信していく場ということもコンセプトの一つであると理解しており、新たな文化発信の拠点となっていけばいいと考えている。【事務局】

- 第1部会の「人が集まり」、第3部会の「高齢者が元気に活躍できる」だが、第2部会だけ子育て世代が選んで終わりみたいになっている。子育て世代や若い世代が住んで、その人達がどうなって、まちがどうなるというところをもう少し見ていただいたら具体的な取り組みも変わってくると思う。【委員】
⇒子ども・若者の転出超過の状況を踏まえた施策の打ち出しということで、若者、子育て世代に、例えば出産や家の購入などといったライフイベントのタイミングで、東大阪を選んでいただくという入口から入った議論になっている。その先の環境づくりや取り組みというところも、部会にフィードバックして、次回また議論させていただきたい。【事務局】
- 外国からの観光客、いわゆるインバウンドについては1行触れているが、外国人材の活用についてテーマとして挙がっていない。ものづくりのまち東大阪を今後維持していくための人手不足の解消、これは国策として外国人材を入れたわけですが、それに伴って教育の問題、福祉の問題など、さまざまな問題を加味して、ぜひとも外国人材については重きを置いて議論させていただきたい。【委員】
⇒特に第1部会のほうではそのことも視野に入れながら議論を継続させていただきたい。【事務局】

案件2. 土地利用構想について

- うまく整理していただいている。「来訪者受入強化に向けた環境整備」という項目があるが、「関西の中心としてのハブ機能を目指すべく、受入強化に向けた土地利用上の環境整備が求められる」の部分で、関西の中心ということで非常に元気のあるフレームが入っていてよかった。もともと荒本地域は大阪府の中で新都心という位置づけがあったかと思うが、今後復活するのか。【委員】
⇒大阪府での位置づけは今なされていない状況で、今後位置づけをするという話は聞いていないが、非常に利便性の高い、ポテンシャルの高い地域なので、ぜひそのポテンシャルを生かしたまちづくりを進めていきたいと思う。【事務局】
- にぎわい拠点の創出ということで、いろいろ地名が挙がってきているが、文化創造館を作っている中で、八戸ノ里の名前が出ていないのが気になった。【委員】
⇒八戸ノ里だが、案の中では布施から瓜生堂までの一体的なにぎわいの創出ということで書いている。八戸ノ里は、文化創造館をはじめ、周辺には司馬遼太郎記念館などの文化施設があり、その取扱いも今後検討したい。【事務局】
- 土地利用の大きな方向性として、人が住むエリアとしてはコンパクト化を目指して、商業地域の近くに人が集まって、工業地域はすみ分けてという方向性で考えているということでもいいのか。【委員】
⇒ご指摘のとおりで、人が住む部分については工業地などに広がっていくのではなくて、駅周辺などに集約してコンパクトに住んでいただきたいという思いがある。住工混在についても、工場集積を図り、工業地に住宅が入りにくくするような規制などをかけていくといった取り組みを進めていっている。【事務局】
- 空き家問題について、工場との混在の解消はある程度規制をかけていかないと実現しないと思うが、空き家の場合は所有者がいるので、方向性には賛同するが、

実際に実現が可能なのか。【委員】

⇒空き家について、所有者の問題など課題が多いが、空き家として放置すると周辺
の環境としても望ましくないので、担当部署で適切に対応している。実際踏み込
んだ対応となると所有者の確認などいろいろ課題があるが、法律の改正状況も踏
まえてできる限り進めていければと考えている。【事務局】

案件3. 基本施策の大綱について

- 最近東大阪市にも外国人の人口が非常に増えてきているという話を聞いている
が、グローバル対策はどこに書いてあるのか。【委員】

⇒生活面は、共生のところでダイバーシティのような考え方が位置づけられるかと
考えている。労働面は、産業のところで外国人雇用者の位置づけも必要になって
くると考えている。中身については部局に照会した上で検討していきたい。【事
務局】

- 以前の審議会の中でもあったが広報が非常に重要ではないか。近畿大学は以前入
試に力を入れていたが、広報部局の人数を増やして広報に力を入れてきた。広報
の媒体も従来の媒体から変わって、積極的にやればやるほど PR できるような状
況に変わってきている。総合計画の中では書くべきことではないかもしれないが、
広報に力を入れていただくといいというのが1つある。あと、効率の面から縦割
り組織が依然として強く残っているのではないかと想像するが、横のつながり
というか、ネットワークというのが非常に大事になってきている。今回の総合計画
の取り組み自体もネットワークを強める機会であると思うので、市民に広報する
ときにもそのあたりが伝わるように。1つの事例だが、尼崎市も工場のイメージ
が非常に強く出ているが、子育て世代を取り込みたいということで PR 誌を作っ
ている。全体として尼崎に住んだらこういう生活が得られるというイメージが出
ていて、なるほどなと思った。東大阪市の場合も工場やラグビーのイメージは出
ているが、居住イメージ、文化イメージが足りない。そのあたりが市民に伝わる
ような PR 誌みたいなことも必要になってくると思う。【委員】

⇒魅力のアピール、シティプロモーションなど、事務局の中でもその議論をしてお
り、重点施策や基本施策の中でも位置づけをどうするか考えている。総合計画の
中でなかなか位置づけ方が難しいが、施策の中で反映するなり検討したいと考
えている。【事務局】

- にぎわいを求めるというところで生駒山麓のことを災害であたかも悪いところ
のように言っているが、大阪市と東大阪市を比べた際に、東大阪市の決定的な魅
力は生駒山を持っていることだと思う。自然に触れられる、それは大阪市にはで
きない。ハイキングとかそういった観点で、自然と親しめるという点でも盛り込
んでいただけたら魅力につながるのではないか。【委員】

⇒生駒山という大阪市にはない強みを出せるというのが東大阪市のいいところだ
と言っていたので、参考にしていきたいと思う。【事務局】

- 教育と子ども・子育てという観点で項目を見ると、小学校に入学するまでと、小
学校までとに分けているように思える。今までの第2次総合計画では教育という

文字が見当たらないように思うが、子育てをする際に 0～6 歳だけを心配しているのかと思うと、そうではなくて、自立するまでが子育てだと考えるのが一般的だと思うので、ここを分けてしまうのはどうなのか。【委員】

⇒行政側から言うと、部局単位で切り分けるということを考えたり、子育てと教育を1つにしてしまうとここだけ膨大な対応になってしまうのではないかとか、そういうことを心配してしまうところがある。今後、各部局への照会の結果を踏まえた上でそういった考え方ができないか、投げかけられればと考えている。【事務局】

- 小学校は 45 校区ぐらいあり、避難場所は学校の体育館としているが、2 階に体育館があるのが 20 数か所ある。高齢化と言っておきながら、いざとなったときに昇降機も何もないのにどうやって移動させるのか。どうしたらいいかということのを頭の片隅においていただきたい。【委員】

⇒地域での備えということで、普段現場で活躍されている方の意見だと思う。そういったことも重要な論点だと思うので、考慮して施策を考えていきたいと思う。【事務局】

案件 4. 今後のスケジュールについて

- 質疑なし

以上